

## 第5回塩竈市長期総合計画審議会の概要

日 時	令和2年11月13日(金) 18:30~20:15
場 所	マリングート塩釜3階 マリンホール
出席委員	柳井会長、草間委員、佐々木委員、下館委員、土井(儀)委員、田中(京)委員、佐藤(京)委員、赤石委員、櫻井委員、今野委員、佐藤(英)委員、江湖委員、土井(萬)委員、太田委員、阿部委員 以上15名 欠席委員10名
塩 竈 市	副市長、教育長、市民総務部長、健康福祉部長、産業環境部長、建設部長、教育部長、市立病院事務部長、水道部長、政策調整監、危機監理監、財政課長、行政改革係長 (事務局)市民総務部政策課
委託コンサルタント	(株)国際開発コンサルタンツ
司 会	政策課長

### 1. 開会

### 2. 会長挨拶

最近テレビでは、東日本大震災について、インタビューを受ける方々が「あの頃は」、「当時は」という言葉を使っており、段々と、歴史的一幕になりつつあると感じる。今日はこの会議が始まる前に、防災センターを見学させていただき、被災の大変さとか、当時の教訓も含めて、伝えていかなければならないという気持ちを強くした。

昨今はコロナが経済、生活にもインパクトを与えつつあり、昨日辺りから第三波という言葉がいよいよ出てきた。震災の津波を経験した私達がこういったコロナ禍でどういう知恵を出していけるのか、色んな意味で問われている。この長期総合計画も単に作って終わりではなく、私達の討論、議論を尽くした計画を埋め込んでいきたい、また、実践できるようにしていきたい。既に経営者の中には、コロナ禍の中で、スタートダッシュをどうしていくのか、うずうずしている経営者が結構いるという話も聞いている。私達も、この長期総合計画は、スタートダッシュをかけていくような気持ちで是非やっていきたい。

### 3. 議事概要

#### (1) 第6次長期総合計画基本構想素案について

事務局から「第6次塩竈市長期総合計画 序論・基本構想素案」について説明後、意見交換及び質疑応答

#### ①序論について

(委員) 先ほどご説明いただいた素案の中の「まちづくりの課題」の 1 番目に「本市の人口は国に先行して減少」とあるが、何かしらの理由があるのか。それと塩竈市を含む、多賀城、利府、七ヶ浜、松島の人口の減少や県の減少の推移等で、参考になるものがあれば、教えていただきたい。

(会長) 人口動態の話があるので、そこで回答してもらおう。

(委員) 計画がここまで形になってきたが、全体的に序論がちょっと重い。場合によっては、データ類等、構想に直接関わらないものは、資料編に回しても良いのではないか。また 3 番目の「本市の特性」について、特性というのは、他と比較しても特に優れているものを指すが、ここでは塩竈の人口の特徴を言っている。むしろ 30 ページの資料編の 1 番目にある「塩竈の個性や大切にしたいもの」とか、「今後のまちづくりの方向性」を基に書いた方が、市の人達も市民の人達も自分ごとになって、この計画がもっと思いのこもった熱いものになっていくのではないか。イントロなので、もうちょっと絞って、次を読みたくなるようなものにリードすると良い。

(会長) 確かに、後ろの特性のところをキーワードとして、先に持ってきた方が分かりやすい。

(委員) 「人口問題が非常に厳しいです」と言いたいだけであれば、データ類は後ろに置いた方が良い。

(事務局) 市の現状という意味で、「現在、塩竈は少子高齢化が進んでいる」というのをまず知っていただくために序論に載せた。確かに先生がおっしゃる通り、これを前段に載せることによって、後段の本来夢のあるところに辿り着くまでに息切れしてしまうかもしれない。構成等については、なお検討させていただく。

(会長) データをコラム風にして、メインから読ませるようにした方が、確かに分かりやすく、塩竈の特徴から進めた方が安心感はある。事務局にご検討いただきたい。

(委員) 総合計画というのは市において最上位の計画で、法律で言うと憲法のようなもの、最高法規である。高齢化が 10 ポイントも高い超高齢化社会を、塩竈市の職員、市民、議員さん、全ての人が共有すべきだ。高齢化が加速するということなので、ここは見せ方は後ろに持っていくにしても、他市町村よりも高いということをきちんと明記した方が良い。

2 点目は、時代のトレンドとして、ビルゲイツが 3 年前の講演で「21 世紀は感染症リスク対応の時代だ」と言っている。13 ページの SDGs の次に、感染症を入れた方が良い。これは他で入っているが、地球環境と一緒にしても良いと思う。環境リスク、感染症リスクなど不測の何かリスクというものを、この形式の 4 番目に入れた方が良いのではないか。

塩竈の人は塩竈のことをよく知っているが、知り過ぎていて、その良さが認識されていない。だからシビックプライド、市民の誇りが大切だ。協働、公民連携、市民と行政、市民・民間と行政、みんなが協働して取り組むことがシビックプライドである。

シビックプライドが日本で一番進んでいるのは相模原市で、今度条例を作るという。そういうのを入れたら良いのではないか。

3点目に、同じ17ページで「切り開く」というとき、オープンの「開く」ではなく、開拓の「拓く」にしてはどうか。少子高齢化は他でも進んでいるので、生き残る自治体しか、生き残らない。現状維持では駄目で、勝ち残るには120%の努力をしないと生き残りすら出来ない。

あとは、よく本当にまとめていただいた。もうちょっと塩竈の認識を市民の方が理解できるように、ちょっと脅かすくらいでも良い。実際の数値が出ているので、そんなところをどこかで入れたらよろしい。

(事務局) 最初に、少子高齢化問題をきちんと知ってもらうべきだという話については、きちんとお話できるような内容で整理したい。場所についても検討する。

2つ目の感染症のリスクをSDGsと同じところに明記すべきという件については、16ページの1番下の「4) 新たな危機への対応」として、まちづくりの課題の1つとして入れていた。

(委員) 具体的な施策で入っているのは承知していた。「主な時代の潮流」に入れたら良いのではないか。ちょっと整理した方が良い。

(事務局) 主な時代の潮流があって、それに対応する形でまちづくりの課題があるという筋書きで文章を作っていく。

シビックプライド、塩竈市民が塩竈市のことを誇るという部分は、我々としても、20ページ、21ページ以降の「10年後のまちのすがた」の中で極力表現していきたいと考えていた。なお、シビックプライドという言葉自体を使うかどうかも含めて、内容についてはさらに精査させていただきたい。17ページの「ひらく」の字は、「拓」を使いたい。

(会長) 東日本大震災から得られた塩竈市民力というか、被災地としてのプライドも是非どこかに載せていただきたい。

## ②基本構想について

(委員) 塩竈は病院を持っているまちでもある。それは、民間や他の運営組織がやっている病院もあるが、市として市民の声をそのまま吸い上げやすい組織だと思う。周りのまちには無いものなので、持っている病院を活性化する方向に持っていくように積極的に活用を考えていただきたい。

(会長) 広域医療の中心地域としてのプライドがあるというのは大事だと思う。

(事務局) 確かに皆さんご承知の通り、この二市三町の中で塩竈市だけが独自の市立病院を有している。現在庁内で市立病院あり方検討部会を組織しており、病院の職員だけでなく、福祉部門も入って、職員が横断的に検討を進めている。市立病院、評価委員会等とも連携を取り、病院の様々な組織の意見を取り入れつつ、塩竈市の職員が考える

病院というものも併せて、この病院の特徴を、計画の中にどのように加えていくか検討をさせていただきたい。

(委員) まず 18 ページのキーワードについて、何か象徴的なものが 1 つあったら分かりやすい。あともう 1 つ、「都」である。例えば、北海道では何とか王国を使っている。宮城県だと村井知事は「何とか体験」。ここには都と書いてある。食の都で「食都」、海だから「海都」、東北の「歴都」、それから魅力のまちで「魅都」等でも良い。2 点目が 22 ページの健康寿命は重要なキーワードである。これに一番力を入れている都道府県が神奈川県で、未病という言葉で国際語にしようとしている。英語にするとヘルスプロモーションという言葉になる。健康とは、健康増進されることだ。だから、最初に出る言葉は健康増進（ヘルスプロモーション）ではないか。それによって健康寿命が延伸されて、元気が出る。健康増進というのを先に入れると、施策の柱が市民にも分かりやすくなる。

(事務局) まず、最初に、聖地や、〇〇王国、都市像に関して、まさに皆さんのご意見、市民の皆さんのご意見をいただきながら作っていきたいと考えていて、我々事務局が作るべきではないと認識している。是非皆様のご意見をいただきたい。22 ページの文言の順番については改めて確認し、修正等を加えていきたい。

(会長) おそらくアンケート結果にも色々出てきている。参考にしようまく整理してほしい。

(委員) 今日は、主に構成についてだけお話をさせていただきたい。先ほど序論について、少し整理をしていただきたいたいとお話させていただいた。特性のところ、例えば、人口については、インパクトを出していくというお話があったが、構想のところも、やはりもうちょっとインパクトが必要ではないか。例えば 29 ページに都市像のポンチ絵がある。これが、もうちょっと前に出てくるイメージが重要である。1 から 8 までの要素が丸で繋がっているが、これがどう組み合わせると、この目指すべき都市像が実現するのかが分かるようなポンチ絵を描くと良い。1 つ 1 つの要素に SDGs が下の方にくっついていて、このままだと、あまり意味を持たなくなってしまう。そのポンチ絵と例えば SDGs がどう絡んでいるのかがあっても良いかもしれない。三重県では、SDGs のウェディングケーキモデルをもじって、今、整理している。そういった基本構想の中で、個別には固まっているが、これらがどう繋がって、どういう活動を目指すのか、どういうものを理念としているのかが分かるような絵が最初にある方が良い。

(会長) おそらく SDGs は個別のテーマになっているので、その町や県によって、一番メインになるところが全部違って来る。公害問題で苦しんでいるところはそれがメインになってくるし、貧困層が多ければ、貧困がメインになる。そこから見えてくる円の構造形態が変わってくる。

(委員) 塩竈は景観が土台にあって、経済と社会がある。今、経済が厳しい状況の中で、どういった施策が取られて、結果として、それがどういう風に繋がるのかということが

- (セーフティーネットを含めて)、ざっくりと見ると良い。
- (事務局) 29ページの『『都市像』の実現に向けて』の輪は、1から8までの各テーマが繋がって、都市像を囲んでいるイメージで作った。この形も含めてどうするか、またこの図を前に持ってくるという順番の問題についても、検討させていただきたい。20ページに「わたしたちが目指す10年後のまちのすがた」ということで、現在、分野1から分野8まで色分けして作っている。それぞれが独立した分野として捉えられてしまうが、これは重層的につながるものであろうと会長からアドバイスされた。例えば、分野5の交流は、「何度でも訪れたいと思うまち」、それがさらに発展すると、上の分野4の「活気があり、誇りをもてる仕事がたくさんあるまち」に繋がっていく。さらに分野3の「住み続けたいと思うまち」になっていく。あとは、分野1の「子どもたちの笑い声があふれるまち」は、同時に「みんながいきいきしているまち」、これは高齢者を主体にした言葉だが、子供と高齢者が一緒に生活の中に溶け込んで、交流をするようなまちであっても良い。つまり、これらの分野は個別それぞれというよりもそれぞれが有機的に重層的に繋がる意味合いを持たせるべきだろうというお話を受けた。この辺は、さらに考え方を整理した上で、29ページの『『都市像』の実現に向けて』の輪の形として、改めて検討させていただきたい。
- 21ページ以降については、先ほど説明した通り、各絵のキャラクターの様子は、10年後の塩竈市が長期総合計画を実現した生活をイメージしたものである。役所が作った面白くない計画としたくない。まずは、重いと言われた序論を飛ばして、ここの文章と絵を見ていただければ、どんな人にも、同じ共通のイメージを持っていただけるものとして考えている。それぞれの分野が独立しているのではなく、キャラクターが10年後、同じ塩竈に住んでいて、有機的に繋がっているような、そういったイメージの図を考えていきたい。
- (委員) 序論が重いと話したが、むしろ基本構想を重くした方が良い。もしかすると、分野の1項目が1ページに納まっているが、ページの半分くらいが10年後のイメージに取られている。「まちづくりの方向性」や「施策の柱」をもうちょっと丁寧に書いて、見開き2ページぐらいあっても、ボリュームとしては良いのではないか。
- (会長) ここまでの話で、悲惨な状況や貧困等、大変なことが一切出ていない。その辺り、皆さんからもう少しご意見いただけた方が、よりリアルな話になっていく。ここをスルーしてしまうと心配である。
- (委員) 先ほど塩竈市民の方々はシビックプライド、塩竈をよく知っているという話があった。よその方々に伺っても、塩竈は相変わらず「魚と社のまち」であるという。市民の方々が、それを今でも感じているのかは甚だ疑問である。それと、市民には、塩竈が観光地だという意識はあまりない。観光に来て、買うのではなく、食べて帰る。その辺を具体的に変えていかないと、計画が綺麗すぎて先行きが不安である。
- (会長) 松尾芭蕉が塩竈に来たとき、「塩竈には生活がある」と記録に書いている。おそら

くこれから、観光の基軸は生活観光、生活ツーリズムに変わってくる。そういった部分を戦略化していく必要がある。今までのように「神社」、「マグロ」だけという時代では無くなってきているので、発想の転換も必要なのではないかと聞いていて思った。

(委員) 21 ページの「子どもたちの笑い声があふれるまち」のところで、まちづくりの方向性に「切れ目のない子育て支援と安心して学べる教育環境づくり」とある。これでは、子育ては支援がないと出来ないのかと思ってしまう。子育ては、不安や悩みが多くてすごく大変だが、それ以上に感動や喜びがあると思う。「支援」を「応援」に変えたら、もうちょっと柔らかい印象になるのではないか。

(事務局) 子育て支援は役所が好きな言葉だが、支援というのは、悪くとれば上から目線な言葉かもしれない。子育て支援という言葉は全体的に出てきている。いただいたご意見のニュアンスは十分理解できたので、検討しながら調整させていただきたい。なお、同じページの箱書きの中の 2 行目に「ずっと子育てを応援してくれるまち」と書いているので、心は同じであるをご理解いただきたい。

(委員) 「目指す 10 年後のまちづくりのすがた」が、非常に言葉の表現が明るくて、希望のみえるまちだなと思う。そのところを施策の柱のところで、もっと具体的に表現が出来ないか。前回、災害に関しても入れていただきたいというお話をした。会長の挨拶の中にもあった通り、東日本大震災の悲惨な状況をもう一度思い出すべきだ。コロナもあり、もっと危機感を持った表現で、なおかつそれを解決していくのは市民だと、「生き生きしているまち」で、是非、表現していただきたい。それから、「笑い声があふれるまち」で提言させていただきたい。以前、塩竈も身体障害者の方の健康都市というのを、宣言したことがある。独り暮らしの高齢者が多いが、非常に元気な高齢者の方も多い。高齢者が運動する機会があまり無いので、公園を整備するときには、遊具や軽く運動できるような、色んな備品を整備する等と書いてほしい。そうすることで、子育ての方が集う場所、高齢者の方が集う場所が出来る。そういう身近なところから、施策の柱の中に表現を折り込んでいただければ有難い。

(事務局) 施策の柱の部分は、これからもきちんと見直ししながら進めていく。そして、雰囲気明るすぎる、軽すぎるというご意見についても、全体の調整の中で見ていきたい。ただし、長期総合計画というのは、あくまで総合計画であり、10 年後に塩竈をこういう風にしたいという計画である。今、現状の問題をどういう風に解決していくかという、フォアキャスティング的な計画ではなくて、あくまで、良い意味での総花的な計画でもあるべきとの思いもある。現実を捉えながらも、きちんと夢を描けるようなニュアンスは、計画の中に残していきたいので、是非ご理解いただきたい。

(会長) 明るい表現にきちんと整合を付けていくためには、一人一人のパフォーマンスを上げるしかない。その時、ここに書いてある施策というのは個人個人のパフォーマンスを上げていく内容になっているのか、そこが施策の力になる。それが無ければ、結局

これは絵に描いた餅になるし、それが仕掛けとして入っていれば、これは期待して良いということになる。それがこの計画書の評価ポイントになる。

ヨーロッパのドイツの小さな田舎町では、人口が減っていても元気なところがたくさんある。産業で頑張る人もいれば、福祉で頑張る人もいる。それは支援ではなく、応援してあげられるということだ。是非、そういったポイントも含めて、ご覧いただければ非常に幸いである。

(委員) 高齢者、福祉の面で少しお話しさせていただきたい。10ページのグラフでも分かるように、高齢者率の推移が他市よりも高い。塩竈市では、独居高齢者、夫婦高齢者世帯がかなり増えている。現在は、高齢者が笑顔で健康に生活を送っていないのではないかと思った。高齢者が長生きして活動出来る場所や居場所が欠けているため、外出する高齢者の支援の取り組みも必要である。岩沼市では、利用料400円で高齢者の居場所づくりを支援している。お買い物や送迎、加えてスーパーの一角を利用して、健康体操や血圧測定、お昼をみんなで食べたりしている。事業者と団体が協力して、高齢者の引きこもり防止等に取り組んでいるが、塩竈市ではそういう具体的な活動は見受けられない。高齢者や子育ての施設の拡充、障がい者やお年寄りがリハビリに取り組める施設も見受けられない。プールもインターアクト(高校生等)や指導者をいれて、障がい者や高齢者が利用できる施設として欲しい。今、塩竈市では、介護を必要とされている方が結構いて、2025年にはより多くの割合が高齢者で占める。塩竈市では今こそ高齢者福祉が求められている。今、10年後の私達の生き生きしているまちというお話をしているが、現在の塩竈市は本当に高齢化率が高いということをもう少し認識していただいて、議論していただきたい。

あと、もう1つ、塩竈市の包括支援センターの所長さんとの話では、お年寄りは独り暮らしで面倒臭くなると、お風呂に入らなくなるという。塩竈市は温泉のまちではなく、施設もないが、本当にお風呂があったり、娯楽施設があったら良いのと思う。そういう面をもう少し考慮していただき、計画を策定していただきたい。

(事務局) 非常に多くのご要望、現状をお伝えいただいた。22ページの福祉分野「みんながいきいきしているまち」の中で、施策の柱の①番「高齢者や障がいのある方など、誰もが安心して暮らせる支援体制の充実」と書いており、基本構想の表現として、まず入れさせていただいた。お話いただいた現状は、早急にも対応しなければならない分野でもあると非常に感じている。個別のご質問に対して、どこまでお答えできるか、これからの予算編成の中で検討を深めていきたい。

(委員) 21ページの子どもの分野の箱書きでお聞きしたいところがある。「親たちも、家庭での教育に日ごろから取り組んでいるみたいで、周りに気を配れる子が多くなった。」というが、今、複雑な家庭も増えているので、「親たち」という表現はどうだろうか。また、家庭教師をしていると、どれだけ家庭で教育を頑張っても、気を配れる子になるとは限らないので、こういう風に具体的にどういう子になったという表現

よりは、プラスになるような表現でぼやかす方が良いと思う。

もう 1 つ、23 ページの生活の分野は、他の部分と比べても、土台になる分野なので、もうちょっと大きく見開きで取っても良いのではと思う。

最後に、SDGs のマークは上の方に入れて、目に入りやすくした方が良いので検討していただきたい。

(委員) 1 つが、27 ページの箱書きの中の下から 3 番目、「文化や価値観」とあるが、認め合いの前に「尊重」を入れたら良いと思う。認めるというのはなかなか難しい。私がカナダに住んで教わったことは、多民族の中では、まず尊重するということである。尊重から認める段階に入って、その後、協力が出来る。

2 つ目が、先ほどの委員のお話で落としどころが 3 つあった。1 つは健康増進をどう拾い上げるかの施策の問題、2 つは移動の推進、アクセス、障がい者や高齢者が移動で困るというアクセシビリティの問題だ。3 つ目は高齢者の独居の問題、10 年後はもっと増える。その時、「繋がり」という施策が大事になる。人との繋がり、地域との繋がり、イベントの繋がり、それから行政との繋がり、お風呂を通じた他者との繋がりである。繋がりへの支援というのが、10 年後に向けて予防的なものも含めて施策の方向としてはあるだろう。

(会長) 繋がりとは、事前の打合せでも随分出たキーワードである。

(委員) 大学で食品の勉強をしているが、塩竈は食べ物を中心に栄えることが出来るまちだ。4) の「活気があり、誇りをもてる仕事がたくさんあるまち」のところに『『みやぎの台所・しおがま』の創造』と書いてあるが、全体的にもう少し、食品のことについて触れていくと良い。また、イラストなど、もう少し目に触れる形で食品を示していくと良い。

(事務局) 食については、特に力を入れていきたいので内容をさらに精査する。

### ③資料編について

(会長) Ⅲ資料編には、キーワード等が色々出てきている。40 ページに重点課題も、この中に一番重要なものが入っている。

(委員) 30 ページに、浦戸について 3 つ書いてあり、ステイションなどの有効活用がある。前回は意見させていただき、今日も塩竈市のホームページを一応確認したが、どこ探してもステイションが出てこない。ここに載せている以上は有効活用出来るようにお願いしたい。

(会長) 計画で使われているイラストは、このワークショップに参加された方が書かれたものだそうで、これはすごく面白い。塩竈の宝と思って描いているので、ビジュアルで見せてもらうと本当に分かりやすい。こういった人達を大事にして、人が輝けるように応援してあげられるようにと思う。

(委員) 1 つが、市立病院についてである。私は茨城県の高萩市との市長をやっていた。人

口約 3 万人のまちである。その隣のまちはだいたい塩竈と同じくらいの 4 万 4~5 千人のまちで、市立病院も持っている。毎年、病院が赤字で 16 億円を市から補填をしていた。公共病院を持つということは、非常にコストが掛かる。4 万人のまちで、少子高齢化の中、どういう風に公共医療を守っていくかは、本当に大きな課題である。それだけの大きなコストを払いながら、市民の命を守る中核となる市立病院を、市民の中で、それでも守っていくんだという認識が必要である。守っていくためには、大学と協定を結んだり、寄付講座をして医師の確保に努めたり、色んな取り組みが必要となるだろう。

2 つ目が、ごみ処理である。高萩市は残念ながら、ダイオキシンの対応が出来なくて、ごみ処理が稼働出来なくなった。作るという話になったが、財政の問題で作れなくなったため、民間委託をした。これで年間 6 億か 7 億くらいの負担が少なくなった。しかし、現在は、隣の市とごみ処理施設を作るということで、今まで委託で 2 億円位で済んでいたものが、140 億位の建設費用になる。ごみ処理施設はだいたい 30~40 年位しか持たない。公益は分散するが色んな手法があるので、民間で使えるものは使うと良い。その浮いた分を庁舎やまちかど整備に回していくという発想もあって良い。

(事務局) 確かに公立病院はなかなか採算のとれない分野をやらなければいけない。それは市民の皆様の健康増進のためであり、命を守るという考え方から、例えば、小児科や長期療養の病棟等の採算のとれない分野を担ってきている。市民の皆さんの税金を繰出金という形で使わなければならないという経営的な発想も非常に大きなウェイトを占めて、いかに効率化が図れるかである。新しい病院を作るだけでなく、医療体制は今後どうあるべきか、まずは必要な医療は何なのか等を議論した上で、病院の機能や大きさなどを徐々に詰めていくということで検討している。

それから、ごみ処理については、別に直営でやるべき話でもない。単体でやれば、間違いなく費用が大きく掛かる。共同でやるにしても、自治体との共同や民間委託というやり方もあれば、市で施設を構築した上でその運営を指定管理というやり方もある。そういった様々な整備手法と運営手法を合わせて検討をしている。まだまだ、たくさん研究するべき段階なので、もう少しお時間をいただきたい。

(会長) 同様に 40 ページに庁舎の整備検討部会の話が出ているが、震災・防災に強い庁舎づくりをしておくべきである。司令塔がやられたら、復旧・復興がかなり遅れてくる。また、今回のパンデミックではパーティション、部屋の区切り方等、要望が多くあると思う。その上で平常時は、市民との交流をどういう風に作っていくのかという要望がある。かなり耐用年数が経っているので、市としては是非ともという感じで考えているはずだ。ご意見、要望、作るならこういう風にしてほしいといった意見をだしてほしい。結構大事な問題提起だと思う。

(委員) 火葬場等は二市三町で使っている。ごみ処理は二市三町でやることは出来ないのか。

(産業環境部長) 塩竈市だけが単独の処理、多賀城、利府、松島、七ヶ浜の一市三町は東部衛生処理組合を作り、ごみ処理を行っている。40 ページのごみ処理検討部会では、一市三町に混ぜていただくことも選択肢の1つとして、様々な議論を行っている。

(委員) 30 ページの文言にある、(2)の4番の福祉で「高齢者や障がい者の雇用の確保」というのは堅い印象なので、「理解し合える、働ける社会」にした方が障がい者の方にも良い。

#### ④将来人口推計について

(会長) 先ほどの委員からのご意見にお答えいただいてから、質問していただきたい。

(事務局) 塩竈市の平成7年から始まった少子高齢化の大きな要因等について、国や県の流れから分析すれば原因が分かるのではないかというご質問だった。我々は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」という計画を作っており、その中で、人口問題について捉えている。

まず、塩竈市の総人口の減少は、平成7年から始まっている。社会増減については、仙台市周辺の他市町がベッドタウンとして新たな住宅開発などで人口が増加しているのに対して、塩竈市は古くから塩釜港を中心に都市が栄えてきたので、古くからの市街地に加えて、限られた可住地にいち早く住宅開発が進められてきた。近年はその動きも終息したことにより、社会減の傾向が続いている。また、自然増減に関しても、いち早く住宅開発が進んだまちなので、入居当時は若かった住民も高齢者となって、若者の流失や核家族化の流れもあり、自然減に転化して、現在も続いている状態である。このように塩竈市は、他の市町に比べて早くから少子高齢化の移行が始まっていたということで、さらに、可住地が少ないにも関わらず、持ち家率や人口密度が高い状況を背景として、若者の流失や、核家族化、出生率の低下、晩婚化、晩産化が追い打ちをかけている状況である。

(委員) 結局、二市三町は、昔から生活圏として一体であった。例えば、水産業の労働力はほとんど七ヶ浜や利府に頼ってきた。学校もそうだ。仙台とも切っても切り離せない関係である。病院の集積率もすごく高い。しかし、現在は塩竈の役割が変わってきている。塩竈市民は塩竈のことよく知っているけれども、では、どうしたらいいのかという問題提起が必要となっている。

(委員) 2つの側面で見ることが必要だ。1つは、生まれる数と亡くなる数の逆転現象で、これは日本全国で起こっている。一方、塩竈に可能性があるのは、近年の社会流動が、外に出ていく人、入ってくる人が横ばいになっている。つまり、人口を維持する力がある。ここは1つ塩竈の他にないメリットとなる。何かまた、住みつくための施策で変わってくるかもしれない。これは面白い特徴だと思う。

(会長) ここでいう生活圏の変化は、流動人口が変わっているということだ。要するに通勤通学の形態が昔と変わっている。昔はだいたい市内でクローズしていて完結してい

た。いわゆる自生的な産業がそれを担っていた。最近では仙台との繋がりが、他市から来る人もいて、物凄く入り組んで、お互い相互依存になっている。昼間の人口が少なければ、そのまちはお年寄りとお子さんが少ない。逆に「ここは働く場でも良いですから、たくさん人が来てますよ」といったら、そういった人達のために昼間どういうサービスをするかは、人の流動によって変化し、まちづくりの基本思想が変わってくる。私が仕事で関わっている角田市では、逆に大企業があるから日中の人口が多い。ところが土日となるとパタッといなくなって、すごく静かなまちになる。そういったところだと全然まちづくりの対策の仕方が違って来る。日中働く人が多いから、知恵を出しても、ウィークデーに何かやれないかという議論になる。そここのところの違いを踏まえていただきたい。間もなく国勢調査の新しいデータが出てくるので、もし間に合うようなら、人口流動について、是非ご検討いただければと思う。

今日は、素案なので目出しの作業になる。今後は事務局と私共を交えてブラッシュアップして、次回、もう少し完成度を上げていきたい。

## 5. 閉会

(事務局) 今回のご意見やワークショップの取り組みから、市民の皆様のご意見を十分に反映し、さらに基本構想(素案)をより良いものにしようと努力してまいります。次回の審議会は、詳細が決まりしだい、案内文書を送付する。